

東日本大震災保健師派遣報告

福島県派遣 期間：平成 23 年 5 月 18 日～5 月 24 日（長寿福祉課 保健師 三浦久美子）

滋賀県健康支援チームは 3 月 15 日から仙台市、福島県に支援を開始、支援チームは 1 班あたり保健師 3 人、薬剤師または獣医師 1 人の 4 人編成です。4 月 10 日から市町保健師が加わり、栗東市は 5 月 18 日に福島県郡山市「ビッグパレットふくしま」に入りました。「ビッグパレットふくしま」は原発から避難されている富岡町と川内村の住民が大多数を占め、二次避難所へ移動される人も多くなり、5 月 23 日現在では 970 人が滞在中でした。震災から 2 ヶ月がたち、ストレスが蓄積されるため日帰りや泊付き慰安旅行等のイベント開催、全フロア住居スペースの毛布の交換や仮設住宅の入居申し込みが始まるなど、様々な動きがあった時期でした。

【一次避難所の活動】

一次避難所「ビッグパレットふくしま」には、滋賀県の他、福岡県から保健師 2 人、広島県から医師・看護師等多職種 7 人、神奈川・埼玉県薬剤師会から 4 人、精神科病院から 4 人、東京電力看護師 2 人等が支援に入っていました。準夜勤から要観察者の引き継ぎを受け、トイレの衛生チェックをした後、全体ミーティングに参加後、1 階から 3 階を 4 チームに分かれて避難者の転入退去の確認、健康チェック（特に感染症疑い者の把握）、高血圧など慢性疾患を持つ者の健康相談や保健指導、受診調整、情報提供（各種相談窓口、ビッグパレットの情報等）を行い、夕方には当日の状況を全体ミーティングで報告するという流れで活動しました。

ビッグパレットふくしま



申し送り中・・・



【二次避難所の活動】

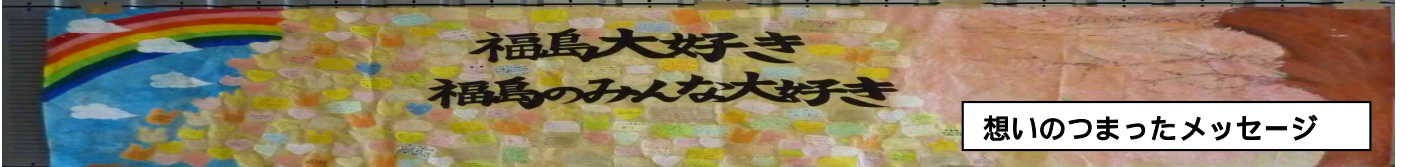
富岡町、川内村、田村市から避難されている郡山市、三春町にある二次避難所を巡回し、健康調査、避難者の確認、健康相談（血圧測定）、保健指導、情報提供等を実施しました。金曜日の午後には富岡町、川内村の保健師と報告会を持ち、情報共有と処遇検討を行いました。

二次避難所報告



福島大好き
福島のみな大好き

想いのつまったメッセージ



【活動をとおして】 避難者の健康問題は変化しており、状況を把握すると共に今後予測される問題を見極め、予防対策や体制を整える必要があると思いました。

具体的には、夏期に向かい、脱水症・熱中症の予防、避難生活の長期化に伴うストレスや将来への不安などに対するこころのケアは言うまでもなく、より日常生活に近い活動が取り戻せるよう、自立に向けた支援などを行うことです。

また、住民がお互い助け合う姿を目にして、日頃からのつながりの大切さを感じました。